

女性過活動膀胱患者に対する屋久島産ボタンボウフウエキスの臨床効果

【背景・目的】ボタンボウフウは関東地方以西の海岸沿いに広く分布する多年生植物で、沖縄では「長命草」とも呼ばれ、古くから野菜として食されている。最近の研究では、屋久島産ボタンボウフウに豊富に含有されるクマリン系化合物のイソサミジン(3'-Acetoxy-4'-seneciolyoxy-3',4'-dihydroseselin)がマクロファージの泡沫化抑制や血管拡張作用を示すことが明らかとなっている。さらに、我々はイソサミジンが摘出臓器を用いた *in vitro* 実験において膀胱および前立腺の平滑筋弛緩作用を示すこと、また、*in vivo* 実験においてラットの排尿機能を改善させることを明らかにした。本研究ではボタンボウフウの臨床における有用性および安全性について検討した。

【方法】泌尿器科かげやま医院において過活動膀胱と診断された45歳から83歳までの未治療の女性患者10名を対象とし、ボタンボウフウエキス含有カプセル(60mg)を1日1回、1カプセルずつ4週間内服させた。投与前後で、排尿パラメーター(排尿日誌、ウロフロメトリーより求めた排尿回数、排尿量、Qmax、残尿量)および酸化ストレスマーカーである尿中8-OHdG(ELISA法)を測定するとともに、自覚症状スコア(IPSS、OABSS、QOL)の変化を併せて検討した。

【結果】①OABSSは約9.0点から6.8点まで有意に減少し、10人中8名で自覚的な満足感が得られた。②一回排尿量は 145.6 ± 13.21 mLから 167.3 ± 17.24 mLまで増加したが、残尿量は 28.80 ± 6.31 mLから 16.80 ± 4.97 mLへ減少した。③尿中8-OHdG/Ucrが 3.09 ± 0.91 から 2.90 ± 0.59 へと減少傾向を示したことから、8名の患者の「楽になった」という感想が、過活動膀胱のストレス改善による影響と考えられた。

【結論】ボタンボウフウエキスは、抗コリン薬などの使用に支障がある過活動膀胱患者において有力な治療選択肢になりうると考えられる。(本研究は、静岡県立大学倫理委員会の承認を得て行っている)